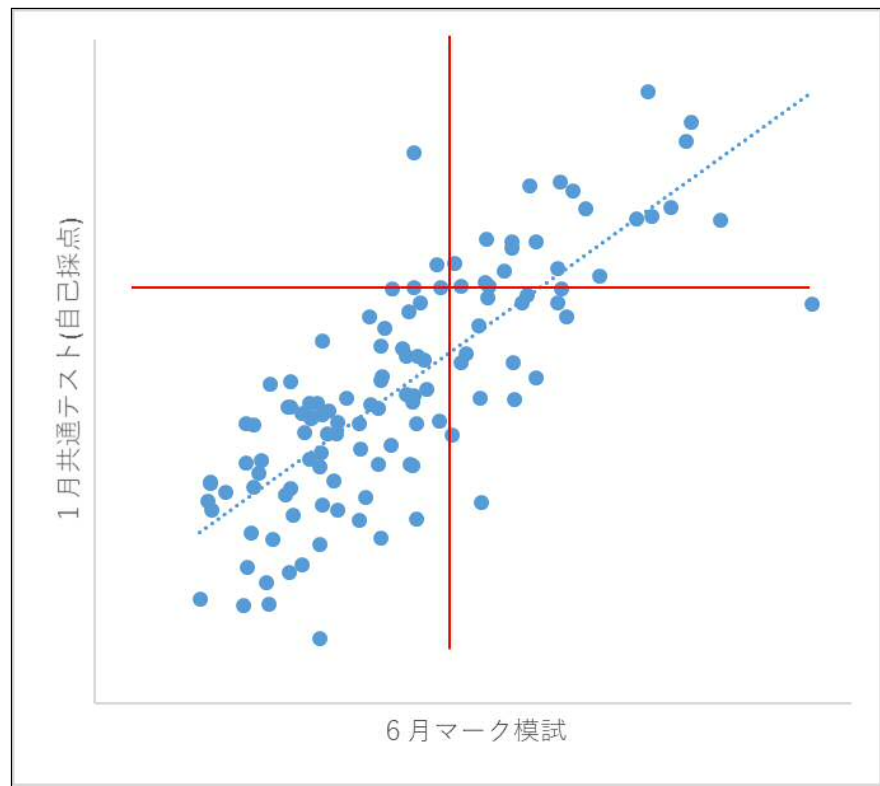


The Shinro Journal とは・・・松江東高校進路指導部が発刊する情報紙です。主に進路に関する情報提供や、各種行事や講座の案内・報告を行います。

令和4年1月15・16日に令和4年度大学入学共通テストが実施されました。大方の予想通り難化し、900点満点の平均得点が昨年と比べて理系で約60点、文系で約45点のダウンとなりました。特に数学ⅠAが約20点ダウン、数学ⅡBが約17点ダウンし、注目が集まりました。

さて、大学進学を考えている2年生は1年後、1年生は2年後の共通テストに向けて学習を進めているところです。これからの学習の指針を示すためにも、東高37期生の共通テストの結果について少し紹介しましょう。

以下は37期生(共通テスト受験者)について、横軸に「6月マーク模試の得点」、縦軸に「共通テストの得点」をとって作成した散布図です。中央付近に引いてある直線は、全国平均を表します。この図から読み取れることは何でしょう？



相関係数 0.79

例えば、次の2点に注目してみます。

- ①強い正の相関がある。
1年生の数学の授業で学習しましたが、相関係数0.79はかなり高い値です。
6月マーク試験で高い点をとれば共通テストも高い点を取り、
6月マーク試験で低い点をとれば共通テストも低い点をとる傾向があります。
- ②平均点ラインで区切られた領域の内、左上にはほとんどデータが無い。
6月マーク模試で全国平均に届かなかった生徒は、共通テストでもほぼ全国平均に届くことはありません。逆に、6月マーク模試で全国平均に届いていても、半数近くは共通テストで全国平均を下回ります。

これら①②については、昨年度入試(36期生)にもあてはまります。①については、「当たり前だ」と思いますよね。これは次のようなことを示唆しています。「3年6月までの学習の積み重ねが入試本番に反映される。」まだ、当たり前のごとくに聞こえますね。では、誤解を恐れずにもっとはっきり言います。

3年6月以降の努力のみで逆転を狙うのは無理がある

「部活を引退してから頑張ればいいや」と思っている人、それでは間に合わないかもしれません。3年6月までに頑張っている人は、それ以降も当然頑張れるので、簡単に追いつけません。もちろん個人差があるので、ごく僅かに短期間で成績を伸ばす人もいます(学年に1人いるかいないかくらいですが)。1・2年生のみなさん、大学受験は先のことと、のんきに構えていては間に合わなくなりますよ。

さらに、②についてももう少し詳しく説明するために、まず「各大学の合格率60%ライン」について説明します。これは、各予備校が昨年度までの合否結果を基に設定するもので、「そのラインに到達している受験生の60%は合格できるであろう」という予想ラインです(予備校により、若干数値は異なります)。本校でも出願先を決定する際は参考にします。今年度共通テストにおいて、島根大学の合格率60%ラインは理系(医学部除く)が全国平均のやや下、文系は全国平均の少し上に設定されました。

さて、②から共通テストで全国平均を上回るためには、少なくとも6月マーク模試で全国平均を上回っている必要があります。つまり、島根大学の文系学部を考えている生徒は、6月マーク模試で少なくとも全国平均を上回る必要があります。

もうすぐ春休みです。1・2年生の皆さんは、授業から解放されて伸び伸びと過ごすことを楽しみにしていることでしょう。もちろん、部活動や地域活動などの活動も大切ですし、趣味に没頭する時間も大切です。しかし、大学進学を考えている生徒は上記のことも忘れずに過ごして欲しいと思います。

裏面では、国公立大学の個別試験、出願決定のポイント、そして公務員についても説明します。

共通テスト40日後の2月25日から、国公立大学前期試験が実施されました。これは各大学が問題を作成、採点するもので、**個別試験（または2次試験）**と呼ばれています。多くの大学では【共通テスト + 個別試験】の合計得点で可否を決定します。配点の割合は大学や学科により異なります。

共通テスト (マークシート)	個別試験 (記述試験・面接・実技など)
-------------------	------------------------

※共通テストの割合が高い大学・学科は、共通テストで目標点を上回ることが最優先です。

共通テスト (マークシート)	個別試験 (記述試験・面接・実技など)
-------------------	------------------------

※難しい大学ほど、個別試験の割合が高まる傾向にあります。

このような大学・学科は、共通テストで目標点を上回ることはもちろん、個別試験の対策が最重要です。

国公立大学の出願先を決定する際には、様々な情報をもとに合格可能性を検討します。その検討の場として設けられているのが進路指導部の主催する【**進路検討会**】です。検討する項目として、次のようなものが挙げられます。

- ・前述の共通テスト「合格率60%ライン」に対して、自己採点の得点率
- ・個別試験での得点可能性
- ・大学、学科の志願倍率や過去の合格者の得点分布 など

志願倍率は合格可能性に影響を与える重要な要素です。東高生にとって身近な島根大学の令和4年度前期日程全体の志願倍率は**2.9倍**でした（個別試験には前期と後期がありますが、ここでの説明は省略します）。特に「教育学部／学校教育課程I類」は**4.6倍**という高倍率でした。皆さんが東高入学の為に受検した島根県高校入試の倍率は**1倍**前後ですから、割と気楽に試験に臨めた人も多かったのではないのでしょうか（もちろん緊張したと思いますが）。大学入試は高校入試と比較すると狭き門であり、緊迫の度合いがより高くなることは容易に予想できます。よく言われることですが、部活動の大会で例えるなら

高校入試は市大会、大学入試は全国大会

です。全国から集まるライバル達に、生半可な努力では太刀打ちできません。高校入試での成功体験は、大学入試においては役に立たないかも知れません。志望する大学や学部・学科について早めに調べ、戦略を立て、計画的に学習・準備をすることが大切です。

学習成績に限ったことではないですが、人間の成長に必要な要素の一つは「**失敗**」です。成績を伸ばす生徒の特徴として、よく「**失敗**」することが挙げられます。例えば、宿題や課題を自らの力で取り組み、「**失敗**」します。そして「次は気をつけよう」と考えます。人はこれの繰り返しで成長していきます。宿題を写すだけの人は「**失敗する機会**」を放棄している、すなわち「**成長の機会**」を放棄していることとなります。大学受験で「**失敗**」しないためにも、今のうちにたくさん「**失敗**」を重ねて、成長してください。

公務員について

東高生の進路は大学進学ばかりではありません。就職する卒業生が毎年おり、その多くは公務員です。また、大学に進学した人も大学卒業後には公務員となることが少なくありません。公務員とひとくちでいっても種類は様々で、まず大きく分けると「**国家公務員**」と「**地方公務員**」の2種類があります。

国家公務員 … 国から採用される公務員
各府省庁、裁判所、内閣、自衛隊などで勤務

高卒程度で受験可能な例

- ・国家一般職(事務)
- ・裁判所一般職
- ・国会図書館一般職
- ・税務職員
- ・刑務官
- ・自衛官
- ・航空保安大学校
- ・海上保安大学校

地方公務員 … 地方公共団体（都道府県や市町村）から採用される公務員
都道府県庁や市町村役場での勤務や、警察官、消防士、教員など
（松江市役所にも多くの東雲会員（東高卒業生）がいるそうです！）

高卒程度で受験可能な例

- ・一般職（一般事務、学校事務、警察事務など）
- ・警察官
- ・消防士

多くの高校生が受験する、地方公務員採用試験（高卒程度）の大まかな日程は次の通りです。職種や自治体によって日程や試験内容が少しずつ違うので自分の希望する自治体のホームページ（HP）などを必ず確認しましょう。

出願（7月～8月上旬）

試験の要項や出願のための書類は、HP上に掲載されることが多いです。自分で必要なものをダウンロードし、必要事項を記入し郵送します。最近はネット出願も増えています。自治体や職種によっては、志望理由書や健康診断の結果などの書類が必要になることもあります。この時期になったらHPをこまめに確認し、早めに準備するようにしましょう。

一次試験（9月下旬）

主に筆記試験が行われ、教養試験・適正検査・作文試験の3つがあります。（自治体によっては、集団面接や集団討議を行う場合があります。）

二次試験（10月下旬～11月）

主に面接試験が行われます。自治体や職種によっては、作文試験や体力試験を行います。

日程を見てもらえば分かるように、**2年生で公務員を希望している場合は残された時間は半年**です。すぐにでも対策を始めましょう。書店に行けば、対策用の問題集などたくさんあります。学校でも模試を実施しています。公務員を目指す生徒は進路指導室へ相談に来て下さい。

また、進学とは違い公務員になるということは、社会人になるということです。そのことの自覚をもち、公務員になるためにふさわしい行動を心がけて下さい！